

朱七だより

令和7年度第1回
学校評価臨時号

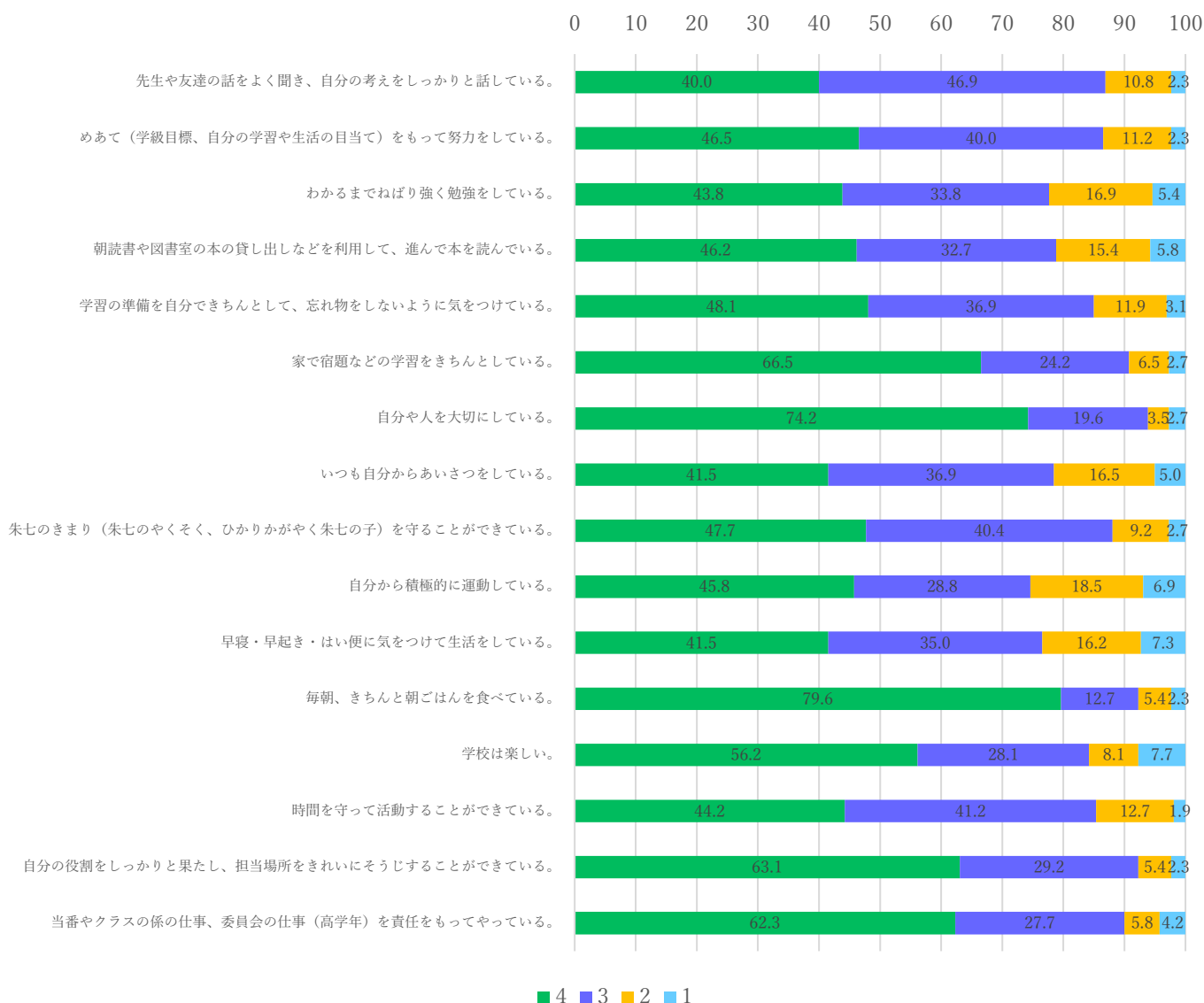
7月に行いました学校評価アンケートに多数ご協力をいただき、ありがとうございました。

保護者の皆様からたくさんの回答をいただきました。この学校評価臨時号では、保護者アンケート・児童アンケート・教職員の自己評価の結果を合わせてお知らせします。この結果をもとに、学校・家庭・地域が今まで以上に連携しながら、さらに子どもたちを育む今後の学校づくりに生かしていきたいと思っております。

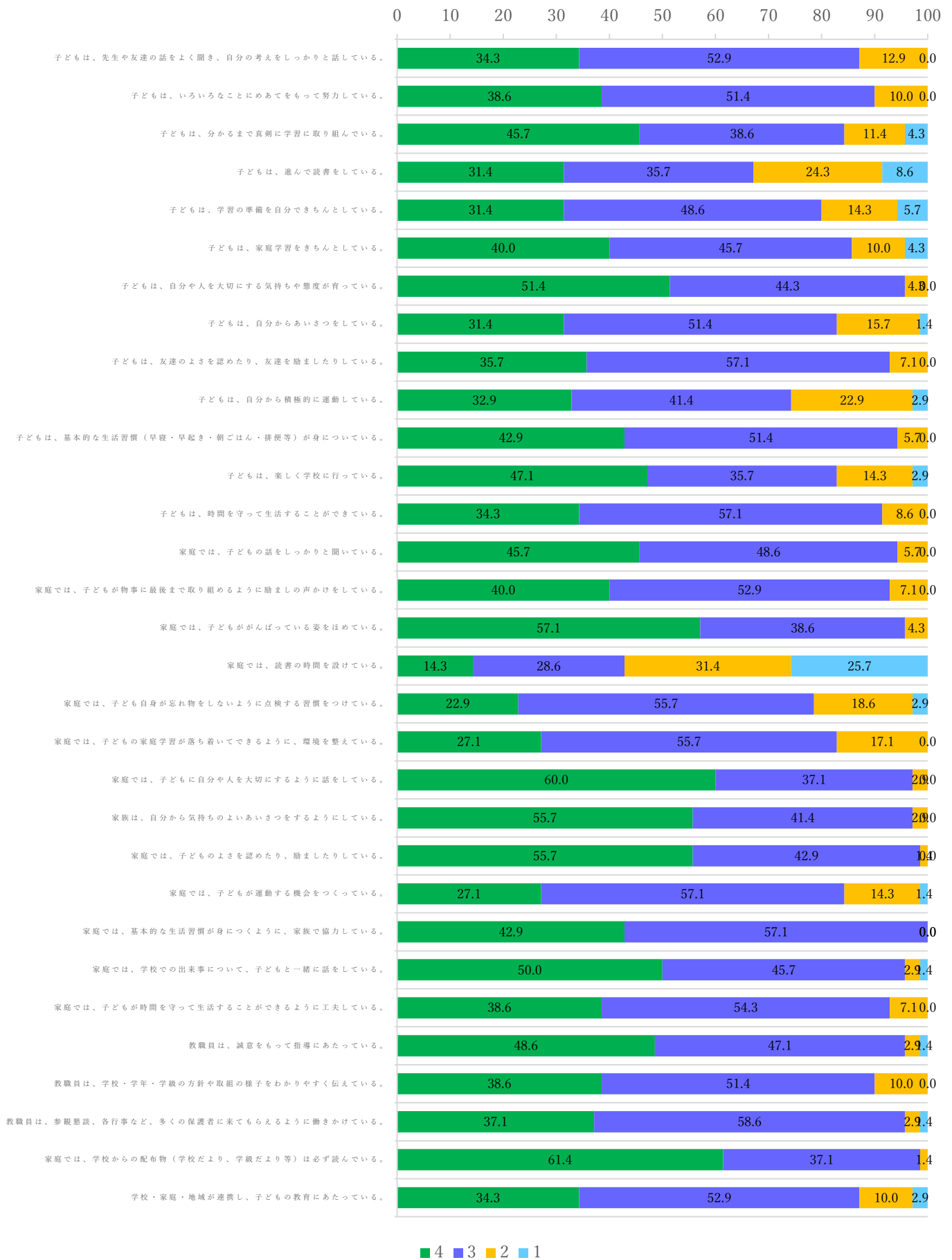
たくさんのご回答ありがとうございました

児童アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートそれぞれの質問項目の関連性を考慮し、児童の自己評価から見られる様子に対して家庭と学校がどのように感じており、どのように関わっていくとよいかについて分析いたしました。それぞれの質問について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を肯定的な意見として捉え、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を改善が必要な点として見つめ、今後の教育活動をよりよくしていくための指標としています。各アンケート結果をもとに分析したことをお届けいたします。

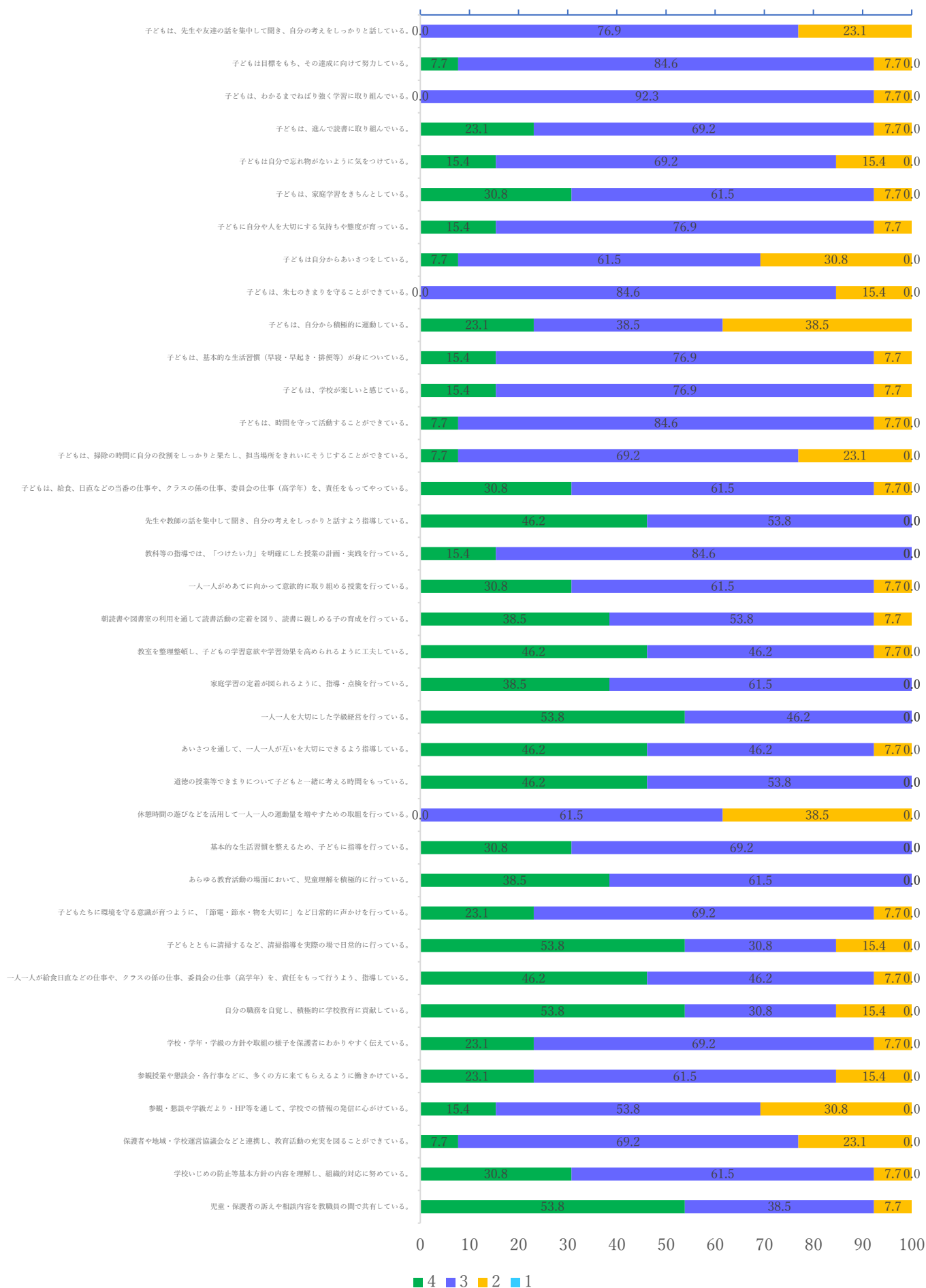
R07 7月学校づくりアンケート（児童）



R07 7月学校づくりアンケート（保護者）



R07 7月学校づくりアンケート（教職員）



◎自分や人を大切にしている

児童アンケートで「できている」の割合が最も高かった項目は「自分や人を大切にしている」です。保護者アンケート「子どもは、自分や人を大切にできる気持ちや態度が育っている」におきましても 95%と高い結果でした。子どもたちが「自分自身を大切にすること」や「友達や周囲の人を思いやること」を日々の生活の中で意識している様子がうかがえます。誰かの気持ちに寄り添うこと、違いを認め合うこと、困っている友達に手を差し伸べること、そうした姿が日常生活からもうかがえます。

一方で、学校生活の中では、友達に対してきつい言葉をかけてしまったり、思いやりや気遣いが足りないことでトラブルに発展したりする場合も見受けられます。子どもたちは日々成長の途中にあり、時には感情のコントロールが難しいこともあります。そうした経験を通して、より深く「人を大切にする」ことの意味を学んでいくことが大切です。

「自分や人を大切にする」ことは、安心して過ごせる人間関係を築く土台となるだけでなく、自分の考えや気持ちを尊重しながら他者との違いを認め合う力にもつながります。これは、これからの社会を生きるうえでとても大切な力です。

学校では、日々の授業や生活の中で、子どもたちが互いに認め合い、支え合えるような関わりを大切にしています。また、「言葉の使い方」や「相手の気持ちを考えること」の大切さについて継続して指導するとともに、子どもたちが自分らしく、そして他者とともに成長していけるよう取組を続けてまいります。ご家庭でも、日々の会話の中で「人を大切にするとはどういうことか」について話し合っていただくと、子どもたちの理解がより深まることと思います。

引き続き、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりに向けて保護者の皆様と連携して取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎基本的な生活習慣の確立

次いで「できている」の割合が高かった項目は「家で宿題などの学習をきちんとしている」「毎朝、きちんと朝ごはんを食べている」「自分の役割をしっかりと果たし、担当場所をきれいにそうじすることができている」です。保護者アンケートでも「家庭では、基本的な生活習慣が身につくように、家庭で協力している」という項目に高評価が見られました。

これらの結果から、日々の家庭でのあたたかい関わりや支えが、子どもたちの生活習慣の定着につながっていることがうかがえます。規則正しい生活や家庭学習、掃除などの学習を通して、子どもたちは責任感や自立心を育んでいます。

一方で、「早寝・早起き・排便に気をつけて生活している」という項目では「できている」と答えた児童の割合が低い結果となりました。特に排便に関しては、運動不足が一因となっている可能性も考えられます。体を動かす機会が少ないと、腸の動きが鈍くなり、排便のリズムが乱れやすくなります。これは、子どもたちの健康や集中力にも影響を及ぼす重要な要素です。

児童期の生活習慣は、将来の健康の土台となります。学校では、運動の機会を増やすとともに、生活習慣の大切さを伝える指導を継続してまいります。ご家庭でも、以下のような工夫を通して生活リズムの改善と排便習慣の定着を支えていただければと思います。

- * 朝食をしっかりとることで、腸の動きを促す
- * 毎日決まった時間にトイレに行く習慣をつける
- * 軽い運動（散歩やストレッチなど）を日常に取り入れる
- * 早寝・早起きを意識し、十分な睡眠時間を確保する

☆積極的に運動を！

児童アンケートで「できている」の割合が最も低かった項目は「自分から積極的に運動している」です。約 25% の児童が「できていない」と答えています。保護者アンケート「子どもは、自分から積極的に運動をしている」におきましても「できている」が 75% と低い割合でした。昨年度も同様の傾向がみられました。

近年、子どもたちの運動機会が減少している背景には、「時間」「空間」「仲間」のいわゆる『3間』の欠如があると言われてしています。放課後の過ごし方やあそび場の環境、友達との関わり方など、さまざまな要因が影響していると考えられます。

児童期の運動経験は、体力の向上だけでなく、心の安定や人間関係の形成、そして生涯にわたる健康づくりにもつながる大切なものです。学校では体育の授業や休み時間等を通して運動の楽しさや大切さを伝えていますが、家庭でのちょっとした運動習慣も、子どもたちの意識を高める大きな力になります。ぜひご家庭でも「体を動かすって楽しいね」「一緒にやってみよう」といった声かけを通して、積極的な運動へのきっかけづくりをしていたいただければと思います。

～ 家庭でできる運動習慣の工夫 ～

① 親子で一緒に運動する時間をつくる

- ・一緒に散歩やジョギングをする
- ・ラジオ体操やストレッチを朝の習慣にする
- ・家の中でダンスやエクササイズ動画を見ながら体を動かす

② 「ながら運動」を取り入れる

- ・テレビを見ながらストレッチ
- ・歯磨き中にかかと上げ下げ運動
- ・室内での階段上り下りを活用

② 遊びの中に運動を取り入れる

- ・縄跳び、ボール遊び、鬼ごっこなど昔ながらの遊び
- ・「何秒でできるか」チャレンジゲーム

☆学習への粘り強さと今後の取組

児童アンケートの「わかるまで粘り強く学習している」という項目では、「できている」の割合が78%と他の項目に比べて低い結果となりました。これは、学習に対する自信や集中力、また「わからないことに向き合う力」がまだ十分に育ちきっていないことの表れかもしれません。しかし、粘り強く取り組む姿勢は、学力の向上だけでなく、将来にわたって課題に向かう力を育むうえでも非常に重要です。学校では、以下のような取組を進めてまいります。

- ・「わからないことはチャンス」と捉え、安心して質問できる雰囲気づくり
- ・めあて意識をもってスタートできる導入の工夫
- ・自分のペースで学べる時間の確保（個別学習やふり返りの時間）
- ・小さな達成感を積み重ねることで、学習への自信を育てる支援

またご家庭でも「すぐにできなくても大丈夫」「少しずつ進めばいいよ」と励ましていただいたり、一緒に考えたり調べたりする時間を設けたり、できたことを認めて「がんばったね」と努力をほめてもらったりすると、子どもたちの励みになると思います。学校と家庭が連携しながら、子どもたちが「わかるまでやってみよう」と前向きに学習に取り組めるよう、今後も支えていきたいと思っておりますので、引き続きご協力よろしくお願いいたします。